

# 県立並木中等教育学校自己評価表

目指す学校像	1 様々な体験を通して広く人間教育を行う学校 2 つくば研究学園都市の一角に位置するという地域性を生かし、大学や研究機関と連携して科学教育を行う学校 3 外国からの研究者・留学生との交流や海外語学研修などを通して、国際教育・コミュニケーション能力育成教育を行う学校				
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況		
平成25年度末に1回生が卒業し、6年間の教育活動の成果として、期待に応える進学実績を出すことができた。また、科学研究や英語スピーチなどにおいて、全国的レベルで評価を受ける生徒も出た。中等教育学校として完成した本校は、今年度から第2ステージに入った。縦につながった6年間の教育活動を検証し、中等教育学校の特色をさらに生かす方を打ち出す。 第1ステージのテーマ「教育理念から実践へ」から、第2ステージは「より高い教育水準・より豊かな教育活動を目指して」とする。 また、学校生活に不応者を出さないよう、一人ひとりの持つ課題にきめ細かく対応できる体制を整えていきたい。	1 意欲ある学校風土の醸成	・健やかな心と体の育成と人間力を培う教育の実践 ・生徒の可能性を大きく引き出す授業の構築とシラバスを使った効果的な学習	A		
	2 志高く、進路実現に取り組む生徒の育成	・個人面談の重視と進学ガイダンスの充実 ・生徒の可能性に挑戦する進学指導の実践	A		
	3 スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の円滑な推進	・中高一貫を活かした理数教育のカリキュラム開発 ・自主的な学習集団の構築	B		
	4 6年間を見通した校内体制の充実	・6年間の教育活動の体系化（学びのロードマップ） ・校務分掌組織の柔軟な連携	A		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
1 総務部	入学・転編入学	入試事務の円滑な推進	A	A	・事務引き継ぎと複数体制 ・合格内規の検討 ・HP更新（生徒の活動、行事予定） ・学校公開対象者の検討 ・支部総会の開催方法 ・連絡方法確認 ・部会を開き計画的な準備 ・内容と必要性について再検討
		選抜方法の検討	B		
	広報活動の充実	学校案内パンフレット、リーフレット作成、HPの掲載	A		
		学校説明会や学校公開の検討・実施	A		
	渉外活動の充実と会員同士の親睦を図る。	本部役員会、学年委員会、広報委員会、研修委員会、生徒指導委員会、支部会の開催	A		
		文化祭、ウォークラリー等、学校行事への参加協力呼びかけ	A		
	儀式的行事関係の充実	部会における企画検討会開催。入学式、卒業式関係の企画・運営	B		
		インタラクティブボード等を利用した放送関係の充実	B		

別紙様式2 (中等)

2 教務部	生徒の可能性を大きく引き出す授業の構築と授業時間の確保に努め、授業技術のレベルアップを図る。	各教科からの要望や意見を調整し、習熟度授業や少人数授業に対応した授業時間割を作成する。	A	B	各教科からの要望や意見を調整し、充実した学習活動を展開
		授業・指導法に関する研究協議、公開授業等を実施することで、授業の質の向上と優れた技術の共有化を図り、教科内、年次間の連携や組織的な指導体制の構築に努める。	B		観点別学習状況評価による指導と評価の一体化 ・ICTの有効活用
		行事の精選・日程の工夫等により、授業時間の確保に努める。	B		各年次行事の調整と学校行事を見通した計画的な授業時間確保
	単位制の特長を生かした教育課程編成の工夫を行う。	生徒の進路実現のための効果的な教育課程編成や履修パターン等の内容を検討し、難関大学入試にも対応できるよう改善を図る。	A		生徒の進路実現のための教育課程編成の工夫改善を継続
	6年間を見通した校内体制の充実を図る。	生徒の自主的な学習態度を育成するためのシラバスを作成し、生徒に見通しを持った学習計画の立案を促す。	A		実態に合ったシラバス作成で自主的な学習態度を育成
		6年間の教育活動を体系化した「学びのロードマップ」を作成する。	C		シラバスをベースに、6年間の教育活動を体系化
3 企画研究部	企画研究部全体目標	SSH事業及び並木メソッドにおける事業の体系化・広報活動の充実及び全校的な支援体制の確立	A	A	SSH及び並木メソッド事業に関する体系化、広報・支援活動に積極的に取り組んだ。
		並木メソッドの活動とSSHの事業のものとリンクさせて実施する工夫・方策の充実	A		
	並木メソッド ・6年間の流れを確立し、それぞれの年次での活動の充実を図る。 ・課題研究の質の向上を目指し多角的に取り組む。	① 各年次の学びの特質を踏まえた6年間の並木メソッドの流れの確立	A	A	① 1～5年次まで流れを作成し、計画に基づいて実施した。 ② 1・2年次内容は要検証。 ③ より一層の充実が必要。 ④ 来年度からの授業化に伴い、必然的に実施可能。 ⑤ ④に同様 ⑥ 5年次生の参加は、個人差はあるものの有益だった。
		②1, 2年次に行う並木メソッドの内容の確立	A		
		③3年次における論文の書き方に関する基礎指導の充実	A		
		④課題研究実施のための生徒の研究時間確保	B		
		⑤課題研究の評価方法の検討	B		
		⑥課題研究終了後の5年次生の下級生指導体制の確立	A		
	スーパーサイエンスハイスクール (SSH) SSH 指定3年目として、研究開発課題に対する実践的な取	① 中高一貫教育を生かした理数系のカリキュラム開発及び教授法の開発・研究の充実	B	A	① 平成27年度新設科目の計画を作成する。 ② 通常授業内における取組を検討する。
		②生徒の理数系への興味関心を高め、持続する研究の継続及びより一層の充実	A		
③自己組織化・進化する学習集団の構築に関する研究の充実		A			
④SSHの評価についての研究		B			

別紙様式2 (中等)

	り組みをする。	⑤SSHとしての広報活動の充実	A		③ 自主ゼミの継続及び通常授業での学習集団の構築を目指す。 ④ 継続的に調査し生徒の変容を調べる。 ⑤ 今年度と同様 ⑥ 通常授業における講義の検討を行う。
		⑥地域の大学, 研究所, 他のSSH校との連携	A		
並木 SGH 国際理解教育・国際交流など特色ある学校づくりの取組		①SSH事業とリンクを指せた国際理解教育の充実 例: 英語で科学を語る教育プログラムの充実 (サイエンスイングリッシュ入門(中1・中2), イングリッシュイマージョン(中3・~中5)イングリッシュプレゼンテーション講座(後期課程生), ESゼミへの協力	A	A	① 年次の枠を超えた新たな事業を3つ実施したが, 外部の事業は経済的負担もあるため継続すべきか検討が必要である。
		②キャリア教育の視点を取り入れ, 外部機関(学術振興会・JICA・土木研究所・産業技術総合研究所・企業等)にも協力を依頼して, 各学年で取り組める行事を企画し, 当該学年に提示する。	A		② 様々な分野の専門の方々に英語で講義をして頂いたり, 非英語圏の方と英語で交流することで生徒が英語運用能力を実践する場が設けられているので今後も継続していきたい。
		③ 海外から本校への訪問の受け入れおよび交流企画立案	A		④ 初めて2週間という長期間ニュージーランドの高校生を受け入れ本校生徒と交流を実施したが, 非常に大きな労力と手間がかかったため, 相手高には旅行代理店を使ってもらうなど本校の教員の負担を減らしていきたい。
		⑤ 海外修学旅行を含め, 宿泊を伴う行事の見直しと再編成	A		④ 開校初の海外修学旅行をマレーシアで実施し, 成功裏に終わった。世界情勢を勘案し柔軟に行き先を決定していきたい。

別紙様式 2 (中等)

		⑥ ユネスコスクールの職員への啓蒙	A	⑤ 今年度は全職員に新年度当初ユネスコスクールについての説明を行ったが、来年度以降も新たな赴任者に年度当初説明をしていく必要がある。
4 学校生活部	基本的な生活習慣を育成し、他人との協調性を養い、自己実現を目指す。	全職員の共通指導。	A	A ・前後期の職員の共通理解を更に深める。 ・上級生が下級生の見本になるよう自覚を促す。 ・より保護者との連携を密にして家庭と協力して事故の未然防止に努める。 ・特に雨天時の登校時指導を継続的に実施し交通安全、事故未然防止を図る。 ・学年を超えて複数で生徒の対応に当たり、情報を共有する。 ・次年度も更に連携を強化して指導に当たる。 ・教育相談担当のみならず、学校全体で支援に当たる。 ・活動時間が限られているので、各部でより効率的な活動内容を検討する。 ・主体的に活動することができたが、全校生徒に活動内容を知ってもらふ必要がある。 ・多くの生徒が実行委員として活動できたが、より主体的に活動できるようにす
		自主的に、挨拶をする・服装を正す・時間を守る、が出来るようにする。	B	
		マナーアップ活動を通して、校則を遵守する態度の育成	A	
	保護者・関係諸機関との連携を密にし、問題行動の未然防止を目指す。	保護者との連携・協力を密にする。	A	
		各中学校・警察等の関係諸機関との連携・協力をはかる。	A	
		生徒事故の未然防止につとめる。	B	
	安全教育の推進を図り、自己防衛意識・自己管理の育成を目指す。	登下校時の立哨指導・巡回指導を計画的に実施する。	A	
		交通安全教育の徹底をはかる。	B	
		定期的に自転車点検を実施する。	B	
	心の問題を抱えている生徒の早期発見と早期対応	学年と情報を共有し、休みがちな生徒に対して、チーム支援の充実を図る。	B	
		校内研修会を実施し、不登校マニュアルや相談室便りを発行する。	A	
	年次・保護者との連携強化	生徒へのアプローチについて教育相談的視点からのアドバイスをする。	A	
		保護者との連携を密にする。また場合によっては医療機関等の紹介をする。	A	
	スクールカウンセラー（SC）の活用	カウンセリングを受ける生徒に対して学校生活の中で支援する。	A	
		カウンセリングにおいて、SCと担任等との連絡調整を支援する。	A	
	部活動の活発化	中等前期・後期課程の生徒を含めた中高6年間一貫の活動方法を、前年度に引き続き模索する。	A	
		部活動における効率的な活動を推進し、個の育成と集団のレベルアップを図る。	B	
		部顧問の適切な配置を考え、学校全体としての指導体制をより充実させる。	A	
	主体性のある生徒会活動の推進	生徒会役員が、主体性を持って生徒会活動を進められるようにする。	A	
		中等前期・後期課程の生徒を含めた生徒会活動のあり方を、前年度に引き続き模索する。	B	
		生徒会役員選挙に多くの候補者が立候補するよう、生徒の意識を高揚させる。	A	
学校行事の活性化	かえで祭の実行委員を増やし、生徒による企画・運営力の向上をめざす。	A		
	中等前期・後期課程の生徒が一体化したかえで祭を作り出す。	A		
	中等前期・後期課程の生徒が同日開催となるスポーツデーを成功に導く。	A		

別紙様式2 (中等)

		WRの実行委員を増やし、生徒による企画・運営力の向上をめざす。	A		<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養護教諭に負担が偏らないように、年次との連携を強化する。</li> <li>・年次縦割り清掃を継続してより生徒主体に取り組めるよう自覚を促す。避難訓練も年間計画に盛り込み計画的に実施する。</li> <li>・食の大切さを、食育を通してさらに意識の高揚をはかる。</li> <li>・より給食の時間が楽しく過ごせるよう工夫する。</li> </ul>			
	生徒の健康・安全・健康教育の推進に努める。	健康診断は校医と相談し、合理的且つ円滑に行い、要治療者については早期治療を徹底する。 日常的な保健室利用生徒について、担任・保護者との緊密な連携をはかる。	A A					
	校舎内の美化と安全に努める。	年次縦割りの清掃班による清掃活動の充実化をはかる。	A					
		ワックスがけおよび清掃強化週間を実施し、校内の美化に努める。	B					
		危険箇所の点検を行ない、改善に努力する。	B					
		災害時等の対応マニュアルの見直しを行い、全職員に周知徹底する。	A					
	正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身につけ、食に感謝し、楽しく食事ができるようにする。	全職員の共通理解のもと、安全と食育指導上、適切な指示をしながら給食指導を行う。	B					
		給食係や給食委員会による常時活動の活性化を図り、給食の円滑な配膳や片付けを行えるようにする。	A					
	5 学習進路部	生徒・保護者への適切な進路情報の提供	進路だよりの発行により生徒・保護者に情報を提供。			B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの学習指導・進路指導の流れを検証・継承しながら、6年間を見据えた並木中等独自のキャリア教育体制をさらに発展させる。</li> <li>・学習環境の整備や教員の指導力向上への取り組みはまだ発展途上であるため、今後も研究が必要である。</li> <li>・家庭学習定着やアクティブラーニングを含め、自律した学習者を育てるための取組を検討していく必要がある。</li> </ul>
			進路ガイダンスの実施により生徒への情報提供と啓発を図る。			A		
個人面談の充実により生徒に高い志と進路実現を目指すさせる。			A					
進路計画の作成		各種進路行事の企画・立案を行う。	A					
		模擬試験等の計画を行う。	A					
		土曜学習会の計画・調整を行う。	A					
		長期休業中課外の計画・調整を行う。	A					
学習環境の整備		赤本等の充実を図る。	A					
		図書の実用と図書室利用の促進を図る。	A					
		ブライツホールの利用を促進する	A					
職員学習指導力・進学指導力のレベルアップ	いつでもどこでも勉強できる雰囲気作りの促進を図る。	B						
	模試等の結果分析により学習到達状況及び目標の共有を図る。	B						
	教師向け研修会の実施により進路指導力向上を目指す。	A						
	相互授業参観や外部教員研修参加の促進により学習指導力の向上を目指す。	A						
6 給食	正しい食事の在り方や望ましい食習慣を身につけ、食に感謝し、楽しく食事ができるようにする。	全職員の共通理解のもと、安全と食育指導上適切な指示をしながら給食指導を行う。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生面、安全に配慮し、人間関係の育成を図る場として給食の時間を大切にしていきたい。</li> </ul>			
		給食係や給食委員会による常時活動の活性化を図り、給食の円滑な配膳や片付けを行えるようにする。	A					
		職員も一緒に給食を食べながら、食事マナーの指導、栄養や食文化の理解、望ましい人間関係の育成を図る。	A					

別紙様式2 (中等)

7 PCシステム	ITを利用した校務の効率化	IT機器の利用普及	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワーク機器（ハブ）が老朽化しているので、計画的に入れ替えていく。</li> <li>ソフトウェア及びハードウェアの整理・管理が必要である。</li> <li>カリキュラムの変更に伴い、成績処理システムを更新しなければならない。今後、システムの更新時期を確認した上で、今後のシステムのあり方について検討していく。</li> </ul>
		校内サーバーを利用したデータの共有方法の確立	A		
		成績処理システムの整備	A		
	IT機器の整備	校務用ハードウェアの整備	A		
		ソフトウェアの整備	B		
		PC室・LL教室の整備	B		
	ネットワーク環境の安全な運用	ネットワーク機器の修繕・補修	A		
		セキュリティの向上と周知	A		
		個人情報の保護	A		
8 事務部	教育環境の充実に努める	生徒が安心して過ごせる安全で機能的な教育環境の充実に努め、省エネルギー・省資源活動を推進する。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネ活動の強化について工夫する。</li> </ul>
		「身なり・あいさつ・マナー・おもいやり」を基本に、明るく丁寧で適切な対応を行い、校内外の信頼を得る。	B		
		県民・保護者等に説明できる効率的かつ適正な事務の執行に努める。	B		
		学校事務の流れを理解し、組織内においてチームによる業務遂行を行う。	B		
	高等学校等就学支援金制度への対応	校内研修、二重三重の事務チェック体制を継続し、適切な運用と案内をする。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>制度について周知徹底を図る。</li> </ul>
9 1年次	他律ではなく、自律できる心を培う。	スコラ手帳の活用法を指導し、時間管理能力や規則正しい生活習慣を身に付ける支援を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>未提出生徒の家庭との連絡をもっと深めたい。</li> <li>道徳でのグループ活動をもっと増やしたい。</li> <li>まだリーダーを経験していない生徒を生かしたい。</li> </ul>
		きまりや課題提出日を守る意識を高め、メリハリのある生活のできる生徒を育成する。	B		
	自分を高め、他を認め合い、思いやり、尊重できる心を育てる。	道徳や学級活動の時間に自分のよさと友達のよさに気づくことができる活動を計画していく。	B		
		校外学習や学年レクなどを生徒自らが企画・運営し、成し遂げる経験をさせる。	A		
	仲間と切磋琢磨し、お互いが高め合える集団を作る。	グループの話合いを習慣化し、自己の成長を実感できる学び合いを取り入れた授業を積極的に行う。	A		
		多くの生徒に、学年、学級の中で様々な活動の場を設け、個性を発揮できたり、リーダーになってまとめたりできる経験をさせる。	B		
	自分の将来像や目標を持ち、前向きに進もうとする生徒を育てる。	総合的な学習の時間での個々の研究や施設の見学、講演会などを充実させ、そこから自分の興味関心のある分野を探ることができる場を設定する。	A		
		教育相談の充実や家庭との連携を進め、学年として共通理解したり、方向性を共に考える場をつくったりしながら皆で育てる集団を作る。	A		

別紙様式2 (中等)

10 2年次	基本的な生活習慣が身につけている生徒の育成(生活指導1)	スケジュール管理能力を育成することにより、自らの生活にけじめを持たせる。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主自律の精神を培うため、規範やマナーを意識して生活することを重点項目として指導してきた。その結果、集団の中の一員として社会に貢献する気持ちを醸成できたと考える。学年生徒会や学校行事の成功に具現化されている。その反面、集団に依存するあまり、自ら計画を立てて実行する力が不足している。スケジュール管理能力を上げ、学習や生活に活かし、将来を見据えた現在の生活の充実を図る力を今後身に付けさせたい。</li> </ul>
		総合的に成熟した人格者の育成を目指し、ルールを遵守できる生徒を育てる。	A		
	社会の一員として行動し、自他を尊重できる生徒の育成(生活指導2)	他者との違いを理解し、尊重できる心を育み、自らとの違いについて折り合いを付ける力を育てる。	A		
		生徒一人一人の自制・自律の精神と共同の心を育てるために年次生徒会を組織し、生徒の自治的活動を支援する。	A		
	目標を持って切磋琢磨できる生徒の育成(学習指導)	日々の授業で学んだことを基盤として、さらなる向上を目指した発展学習に積極的に励み、豊かな知識と確かな学力を身につけさせる。	A		
		定期テストや日々の小テストの積み重ねを大切にし、小さな挫折から学び、明日への活力とする生徒を育成する。	A		
自己理解と進路意識の高揚(進路指導)	自分自身を客観的に見つめ、自己の適性を見極めるとともに、将来の職業に対する興味・関心を持たせる。	B			
	個別面談やキャリア学習を通して、自らの将来像をイメージでき、それに向かって邁進できる心を育てる。	B			
11 3年次	規律ある基本的な生活習慣の育成(生活指導)	校内や登下校時における挨拶指導の徹底とよりよい人間関係づくりを行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶や登下校時の交通マナーについて重点的に指導する。</li> <li>・家庭学習時間の習慣づけと成績下位層の生徒への指導の徹底、また上位層へは応用力の強化を図りたい。</li> <li>・進路指導関連の行事と、キャリア教育とを絡めて計画を策定し、推進していきたい。</li> <li>・並木中等生としてのプライドを持たせたい。</li> </ul>
		5分前行動を奨励しチャイム前授業準備の徹底を図る。	A		
	学習の習慣化と基礎学力の育成(学習指導)	家庭学習の習慣化を図るための指導の工夫をする。	A		
		単元全体を通して、基礎から発展へと広がりのある授業を展開する。	A		
	自己理解と進路意識の高揚(進路指導)	大学・学部学科調べやマイフューチャーセミナーによる進路意識の啓発	A		
		国内修学旅行を通して日本の文化伝統への理解を深め、さらに国際社会での情報発信能力の育成を図る。	A		
(その他)充実した学校生活を送らせる。	部活動・生徒会活動への参加の推進	B			
	学校行事への積極的参加を促進	B			
12 4年次	規律ある基本的な生活習慣の育成	家庭との連携を密にして、問題の発生を未然に防ぐ生活指導を徹底する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発展期を迎えるにあたって、基本的な生活習慣を育成することにより、「社会力」を付けさせる。</li> <li>・学習習慣の定着化を図ることにより、学力向上を目指す</li> </ul>
		生徒一人ひとりの自制・自立の精神と愛校心を育てるために、生徒の自治的活動を支援する。	B		
	学習の習慣化と基礎学力の育成	基礎学力の習得とともに、応用・発展へと広がりのある授業を展開する。	B		
		朝テスト、週末課題、模試等の実施による学習の習慣化および学力向上を図る。	B		
自己理解と進路意識の高揚	進路講演会、大学見学会、マイフューチャーセミナー(職業人講話)等による自己理解と進路意識の向上を図る。	A			

別紙様式2 (中等)

		面談, LHR, 総合的な学習の時間等を活用して, 生徒全体かつ個々に対して適切なアドバイスや情報提供を行う。	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談や講演会等とおし, 自己理解と進路意識の向上を図り, 進路実現につなげていく。</li> <li>・一人一研やSSH関連の行事への参加をおし, キャリアアップを図る。</li> </ul>
	その他	継続した部活動への参加の推進を図る。	B		
		生徒会や学校行事への積極的な参加を促進し, 将来のリーダーとしての素質を養わせる。	A		
1 3 5 年次	規律と活力ある基本的な生活習慣を育成する	遅刻指導を重点的に行い, 早めの登校時間により学校生活にリズム感を持たせる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路意識, 家庭学習習慣の拡充を図るため, 生活記録表の担任とのやり取りをおした関係を重視していく。</li> <li>・6年次を充実した受験期とするために, 進路希望の明確化と現況とのギャップを確認させ, 学習計画を立てさせる。</li> </ul>
		生活記録表の提出により, 生徒と担任間の意思疎通を密にし, 問題発生を未然に防ぐ。	B		
	生徒間, 生徒と教員間の集団としての信頼関係を醸成する	発展期を迎え, クラスの団結と仲間意識の向上のためLHR活動を充実させる。	A		
		社会と個人との関係を意識させるため, 校外学習や修学旅行の企画等を主体的に行わせる。	A		
	自学自習の充実と発展的学力の育成	自ら主体的に学ぶ集団の育成のため, 質問の応答, プライトホールの活用などを促す。	B		
		進路を意識した学習指導を充実させるため, 課題の提出, 課外への主体的参加を徹底させる。	C		
多様性と自己理解について考察を深める生徒の育成	マレーシアへの修学旅行をおして, 文化の多様性から客観的自己理解を促す。	A			
	最終年次に向けて, 大学模擬授業や進路講演会をおして多様な進路意識の向上を図る。	A			
1 4 6 年次	規律ある基本的な生活習慣の育成(生徒指導)	校内や登下校における挨拶指導の徹底とよりよい人間関係づくりを育成する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に校則を確認する。</li> <li>・本人, 家庭, 学校の三者における情報共有と連携を図る。</li> <li>・教科及び年次内での情報共有と連携を図る。</li> <li>・進路希望を貫く強い実行力と意識を維持させる。</li> <li>・6年次まで部活動を継続する意志を強く持たせる。</li> </ul>
		家庭との連携を図った生活指導を徹底する。	A		
		生徒一人一人の自制・自律の精神と愛校心を育てるために, 生徒の自治活動を支援する。	A		
	主体的な学習と応用力の育成	授業において学習へ向かう姿勢・方法を理解させ, 自ら主体的に学ぶ態度を育成する。	A		
		基礎基本の確実な習得とともに, 応用・発展, 深化へと広がりのある授業を展開する。	A		
		単元末テストや課外授業により生徒の学力向上を図る。	A		
		総合的な学習の時間において, 知識の活用能力の育成を目指し, 課題解決能力を育成する。	B		
	志高い進路希望の実現	自分の可能性に最大限に挑戦する強い意思を育成する。	B		
		LHR・総合的な学習の時間において, 社会観・職業観を育成する。	A		
		面談等を実施し, 将来に向けての自己の在り方・生き方を考えることを育成する。	A		
最高年次としての中等教育学校生活の充実	学習と部活動の両立をめざし, 引退まで部活動を続けることを促す。	B			
	最高学年としての自覚を促し, 下級生の模範となる生活態度を育成する。	A			
1 5 国語科	基本的な学習習慣の定着	学習ガイダンスを重視し, 学習の見通しをもたせ, 計画的に学習しようとする態度を育てるとともに, 予習・復習の学習習慣を身に付けさせる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年間を見通した学習内容の系統立てを行う。</li> <li>・教材研究や授業法の共有化</li> </ul>
		単元ごとに明確な到達目標を提示し, 段階をおった授業計画と評価計画を提示する。	B		
	読解指導の深化	論理的文章・文学的文章の読解法について解説する中で, 様々な文章についても読解できる	A		

別紙様式2 (中等)

		ようにする（「客観読み」の理解を図る。）。			<p>を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学び合い」により学習の深化を図る。</li> <li>・他校の視察をより積極的に行う。</li> </ul>
		生徒自らが、主体的に文章と対峙するような視点をもてる読解指導を展開する。	A		
	「書くこと」の指導の徹底	「読むこと」や「聞くこと」と関連させながら、ノート指導を基本とし、書くことを通して思考をまとめる方法を学ばせるようにする。	B		
		各年次に合わせた作文や小論文の指導を行い、自分の考えを十分に表現できるように添削指導を行う。	B		
	「聞く」態度の育成と、適切な話し方の指導	正しく内容を理解するために、状況に応じて「聞く」、「聴く」、「訊く」の3種類の「きく」を使い分けられる生徒を育てる。メモを活用した聞き方についても指導を行う。	B		
		場と内容に応じ、聞き手を意識した「話し方」を工夫しようとする態度を育てる。	A		
	研修会等を利用して、研鑽に励み、授業作りや指導法の向上を図る。	研修会等に積極的に参加して、授業づくりの参考になる情報を得る。	A		
		年次進行に合わせた授業法の研究を行い、新たな指導法の構築を図る。	B		
		他の中等教育学校の授業を積極的に参観し、指導法の参考とする。	C		
16 社会科	年間指導計画の作成	シラバスの作成と活用	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態に合ったシラバス作成で自主的な学習態度を育成する。</li> <li>・デジタル教科書やパワーポイントをいっそう活用する。</li> <li>・「現代社会」における討論型授業を推進する。</li> <li>・中学校社会科において新聞作成を行い、まとめる力を養う。</li> <li>・レポートなどの課題作成を工夫する。</li> <li>・教科会をとおして小中学校経験の教員が主となり観点別評価について研修を進める。</li> </ul>
		単元目標の提示と達成	B		
	学力向上と定着のための指導	ITを活用した授業の実践	A		
		学習方法・学習形態の工夫と改善	A		
		学習指導及び方法の工夫			
		科目の特性に応じた課題の工夫			
	生徒の学習意欲を喚起する学習指導	小テストの実施とプリントの活用	B		
		家庭学習の充実	B		
		観点別評価の工夫			
	17 数学科	基礎・基本の定着とともに応用力の養成をはかる指導	生徒が考えればわかる、やれば解けると思えるように、授業展開や説明方法を工夫する。		
定期的な課題を与え、家庭学習と充実させることで、基礎・基本の定着を図る。			A		
生徒の学力に応じて学習内容を精選し、深化的・発展的な内容の学習も行う。			B		
学習意欲を喚起する指導		課題や課題提示の工夫をする。	A		
		数学的活動の充実を図る。	A		
		数学的コミュニケーションの充実を図る。	A		
個に応じた指導		きめ細かな指導をするため、TT指導・習熟度別学習・少人数学習を工夫改善する。	B		

別紙様式2 (中等)

		生徒の実態を把握し、個に応じた助言・指導が行えるようにする。	B		・SSH事業へ積極的に参画し、カリキュラムや教材・指導法を開発する。
理科	年間指導計画の改善	地域素材や研究施設の活用を図り、観察・実験など直接体験を重視する。	A	A	・系統的な学習内容の検討、実施を進める。  ・生徒が主体的に学習をすすめるための教材・指導法を検討、実施する。  ・用語を適切に用いて、観察・実験の結果を分析、考察する力の養成に努める。
		後期課程の学習内容を前期課程に導入するにあたり、系統的に学習内容を検討し、実施する。	A		
		上記目標のため、シラバスの改善を行う。	A		
	学力の向上	科学に対する興味・関心を高める導入やICTの積極的活用、教材の工夫を行う。	A		
		分かる授業の工夫と展開を研究する。	A		
		ワークや到達度シートを活用し、基礎の徹底を図る。	B		
科学的な見方や考え方を育成する指導の工夫・改善	仮説を立てて観察・実験を行い、結果を分析したり、解釈したりする活動を行う。	A			
	実感を伴った理解を図るために、実社会や実生活との関連を重視し、学んだことを生かす態度を育てる。	B			
		科学的な用語を使って、説明したり、記述したりする活動を取り入れる。	A		
英語科	総合的なコミュニケーション能力の育成	言語の使用場面を考え、4技能のバランスのとれた言語活動を実施する。	A	A	・どの年次においても日々の課題提出とこまめなテストの実施および事後指導を行っており、模擬試験では全国上位の良い結果が表れているので、今後も同様の指導を年次毎に申し送りを実施し、行っていきたい。 ・後期課程の観点別評価の導入に向けて教員側の意識改革を早急に行いたい。 ・新年度から実態にあったシラバスの作成を心がけたい。
		オーセンティックな物や視聴覚教材を取り入れた授業を展開する。	A		
		授業導入時や展開時における日常会話や音声表現活動（自己表現活動）を実施する。	A		
	基本的な英語力の構築	自主学习ノートの定期的な提出やこまめな小テストの実施・評価と共に、効果的に生徒へフィードバックする。	A		
		辞書の活用を奨励し、語彙を増やすことを目的とした諸活動を実施する。	A		
	英語を用いた言語活動を積極的に行える力の育成	プレゼンテーションやディベート活動といった発展的な言語活動も通して異文化交流、異文化理解を行える力を育成していく。	A		
	教科書だけでなく様々な補助資料を用いて異文化理解を進める。	A			
国際的な視野を広げる言語活動の構築	ALTや留学生とのコミュニケーション活動を通して、様々な考えに触れる機会を設ける。	A			
	外部機関やゲストティーチャーの活用や総合的な学習と連携した活動を実施する。	A			
芸術科 (音楽)	基礎的な能力を養う	実技を含めながら、基礎的知識についてわかりやすい説明を行う。	A	A	・基礎的な知識の定着を図る ・表現活動を更に活発にする ・表現の場を多く取り入れる ・グループ活動を取り入れる ・楽曲の背景について学ぶ ・わかりやすい説明をする。
		反復練習を重視し、表現活動の能力を養う。	A		
	幅広い表現活動の充実	歌唱・器楽それぞれの表現活動を多く取り入れる。	A		
		表現活動の形態を工夫し、意欲的に取り組めるよう工夫する。	B		
	鑑賞教育の充実	様々な時代、形態、国の音楽を鑑賞することで、音楽文化への興味、関心を高める。	A		
		音楽の諸要素に着目し、音楽の構成についても理解しながら鑑賞できるようにする。	B		
21	基礎的な表現の能力を養う	基礎的な知識や技能を身につけ、表現活動を充実させる。	A	A	・さらに広げる。 ・IT機器をさらに活用する。
		わかりやすい授業をとおして興味関心を持たせる。	A		

別紙様式2 (中等)

芸術科 (美術)	多様な表現活動の充実	発想を大切にそれを合った表現を工夫できる教材を選ぶ。	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材を精選する。</li> <li>・時間配分を再構築する。</li> <li>・諸外国との比較ですすめる。</li> <li>・本物に触れる機会を増やす。</li> </ul>
		幅広い表現体験を積み、表現の楽しさや喜びを持たせる。	B		
	鑑賞活動の充実	時代や諸外国の文化をとおして自国文化の大切さを養う。	A		
		幅広い表現を鑑賞することで自己の表現に生かす。	B		
2 2 保健体育科	体力を高め、心身の調和的発達を図る。	授業及び体力テスト等への積極的参加姿勢の育成	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力の低い生徒が多いため、体力の向上を図る必要がある。</li> <li>・個々の能力に応じた運動で、楽しめるルール作りをする。</li> <li>・ルールを守ることの大切さをさらに理解させる。</li> <li>・3年次で高校保健が入ってくるので中高の内容の連携を図る。</li> </ul>
		体づくり運動の効果的な実践	B		
		自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育てる。	A		
	運動を豊かに実践することができるようにする。	運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	A		
		幅広い基礎運動技能の修得	C		
		ルールの理解	B		
	スポーツマンシップの育成	規律ある行動	A		
		あいさつの励行	B		
		マナー、ルールの遵守	A		
	保健学習の充実	心身の発達と心の健康についての理解	A		
健康と環境、障害の防止についての理解		B			
健康な生活と病気の予防についての理解		A			
2 3 技術・家庭科 における技術 分野	生徒の学習意欲を高める学習指導	生徒の興味・関心に答える学習内容を工夫する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの年次においても実習を通して、グループ内での学び合いや、友達との協力の大切さを学ぶことができている。これからも実習を大切にしていきたい。</li> <li>・パソコン入力コンクールでは、6名の生徒が全国大会に出場するすばらしい結果が現れているので、今後もお同様の指導をしていきたい。</li> </ul>
		実験や実習を効果的に行い、興味を引き出すとともに、理解の定着を図る。	A		
		グループ活動を取り入れ、自主性や協調性を伸ばすとともに、楽しい授業の実施を工夫する。	B		
	科学的な理解と技術の習得	さまざまな事象を科学的にとらえる授業を展開する。	A		
		社会の中での生活を主体的に行うための基本的な技術を身につける。	B		
		学習ノートを活用し、学習したことの定着を図る。	B		
	生活に生かす力の育成	生活の場面で生徒が取り組めることを意識した授業を展開する。	A		
		ワークシートや実習を通して、生活の場面を想定できるよう授業を展開する。	B		
2 4 家庭科	生徒の学習意欲を喚起する学習指導	生徒の興味・関心に答えるとともに、知的好奇心を喚起する学習内容を工夫する	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動などで、話し合いや討論などの言語活動を有効に取り入れ、生徒の理解を深めるように努めた</li> <li>い。</li> <li>・授業内容を精選し、実験・</li> </ul>
		実験や実習を効果的に行い、体験的に学べるようにする。	B		
		グループ活動を取り入れ、自主性や協調性を伸ばすとともに、楽しい授業の実施を工夫する。	A		
	科学的な理解と技術の習得	生活を科学的にとらえる授業を展開する。	A		
		効果的な実習を行い、基本的な技術を習得する。	B		
		資料集や学習ノートを活用し、学習内容の定着を図る。	A		

別紙様式2 (中等)

	生活の場での実践力の育成	課題をみつけ改善できる実践力を身に着ける。 保育所訪問や地域の活動などの参加を促し、学んだことを生かす態度を育てる。 生活者として、深い洞察とより良く生活を改善していこうとする視点を育む授業を展開する。	B A A		実習を効果的に取り入れた授業を展開したい。 ・調理や縫製などの基本的な技術の習得が図られるよう、より一層指導を工夫していきたい。
25	IT活用及びコミュニケーション能力の育成	実習の中で基本的なビジネス用ソフトウェアを利用する。 情報の検索、加工、発信という基本的なIT活用プロセスを扱う。 グループワークや他とのコミュニケーションを重視した実習を行う。	A A B	A	・グループワークでの意義ある実習について考えていきたい。
	情報倫理の育成	知的財産権について、いろいろな場面で扱う。 情報倫理について、自分で判断できるように指導する。 人と人との関係性を重視した指導を行う。	A A A		
	他教科や外部組織との連携	学校行事とリンクした実習を取り入れる。 他教科や外部組織との連携をいろいろな場面で試みる。	A A		
26	望ましい生活態度を身につけ、互いの個性を尊重し、自主的・自律的な行動をしようとする態度を育てる。	24項目を計画的に扱うとともに、学級や学年の生徒の状況を把握し、生徒の実態に応じた題材を提示する。 クラスやグループ内で意見交換し、他者の考えを参考にしながら自分の考えを深めさせる。 授業で考えたことを、自分の今までの考え方や生活と比較し、これからの自分の生き方に反映できるようまとめる。	B A		
27	集団や社会の一員として望ましい人間関係を作りよりよい生活を築こうとする気持ちや自己を生かす力を養う。	シラバスの活用により、見通しを持って活動に取り組みせる。 校外学習の計画と生徒主体の活動の実践 生徒会活動や学校行事への積極的な取り組み 学級での一人一役の実践と工夫	B A A A	A	・シラバスの活用と、より生徒が主体的に活動できるように計画する。
28	自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。	「地域再発見」というテーマで、かえで祭において、自分の住んでいる地域についてポスターセッション方式で発表することを通して、探究のスキルを育てる。(1年) 科学・国際・人間・地域の分野から興味にあるテーマについて「課題研究」を行う。文献調査・講演会・校外学習等を通してまとめ、発表をし、課題発見能力、情報収集・活用能力、課題解決能力を育てる。(1年) 「マイフューチャープロジェクト」というテーマで、自己理解を深め、職業調べや職場見学を行うことを通して、職業の多様性を理解させ、職業観を育てる。また基礎期のまとめとし	A B B	A	・ルーブリックを示しておき、ポートフォリオ評価を行う。 ・課題探究の方法を学習する前であるので、論文ではなく、レポートとしてまとめる。 ・理科系論文の手順に比べ、文科系論文の作成に戸惑う

別紙様式2 (中等)

	て、卒業後の自分を見据えながら、これからの生き方の決意を固める。(2年)				
	「ミニ研究」というテーマで、個人課題研究(一人一研)のための、課題発見能力、情報収集・活用能力、情報の再構成能力、課題解決能力などのスキルを学ぶ。(2年)	A			姿が見られた。多くの論文に触れる機会を作りたい。 ・今の学びが将来どのような場面に活用されるのかを理解できる場をもっと設定したい。
	「未来への変革～視野を広げよう、考える力を深めよう～」というテーマで、一人一研に取り組み、学ぶスキルの習得とともに、課題追究能力、課題解決能力を伸ばす。(3年)	B			・5年次発表、4年次中間発表、SSH報告会を経て、先輩方の取り組みを、具体的に学ぶようにする。 ・進路意識の高揚につなげていく。
	マイフューチャーセミナー、大学見学、進路講演会を中心とした進路学習において、個々の進路に対する視野の拡張を図る。(3年)	A			
	「体験を通して、自分の在り方・生き方を考える」というテーマで、一人一研に取り組み、学ぶスキルの習得とともに、課題探求能力、課題解決能力を伸ばす。(4年)	A			・一人一研については、中間発表を終え、最終発表に向けて研究を深めていく。生徒の課題探究能力および課題解決能力をさらに伸ばしていきたい。
	マイフューチャーセミナー(職業人講話)や大学出前授業、進路講演会を中心とした進路学習において、個々の進路や生き方に対する視野の拡張を図る。(4年)	A			
	「多様性と自己理解」というテーマで、マレーシアへの修学旅行を契機に文化の多様性と国際社会における日本の立ち位置を自覚させるとともに、客観的自己理解を促す。(5年)	A			・マレーシア修学旅行と一人一研を頂点とするこれまでの研修を踏まえ、自己理解を進めて進路目標を定めさせる。
	自己の進路について、多様な視点から情報を集めることで具体的な可能性を見いだせるよう促し、最終年次に向けて意欲の向上を図る(5年)	A			

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない